

参画と協働の評価について課題整理  
 (第6回参画・協働推進部会(H20.2.21)での審議から)

1 評価の基本的な考え方等

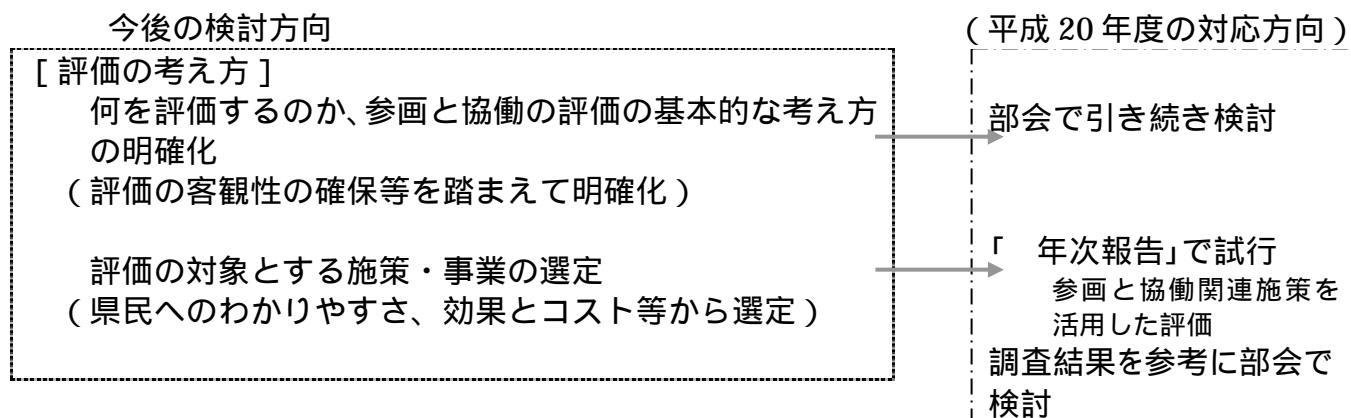
主な意見

(評価の導入について)

- ・平成 17 年度に実施した施策の効果の総合的な検証により、一定の評価を実施しており、現時点でシビアな評価をする時期が来ているかどうか疑問である。
- ・部局に評価結果を示すことは、今後の施策展開に効果的であるが、網羅的に評価することは難しい。また、県民に評価結果をわかりやすく説明することも難しい。
- ・事業そのものの評価をするのではなく、参画と協働の取り組みについての評価を考えていけばよい。
- ・評価方法については、参画・協働推進部会で時間をかけて議論する必要がある。

(何を評価するか)

- ・参画と協働で目指していたことが達成できたかを評価するのか、それとも手法をどのようにしたかを評価するのかなど、何を評価していくのかを考える必要がある。
- ・参画と協働の手法を適切に、十分に利用しても施策としての結果が出ない場合もある。
- ・参画と協働という言葉と意義が、やっと認識され始めてきた現時点では、手法がどれだけ活用されたかという評価でよい。次の段階で、県民の生活にどれだけプラスになったのか、県の施策にどれだけ貢献できたかをみればよい。
- ・アウトカムが最終目的であると思うが、こういう動きがでてきた、こういう動きになってきたというのが当面の評価の考え方かもしれない。



2 評価の視点等

主な意見

(評価の視点や方法)

- ・県民相互の協働と県行政への参画では、異なる視点からの評価が必要である。
- ・県民主体の地域づくり活動の方は動いているが、むしろ行政への参画と協働の仕組みの方が、それが本当に機能しているのかどうかを考えなければならない。
- ・パブリック・コメントで意見が施策にどのように反映されたかは重要であるが、評価することは難しい。
- ・団体が県民局を訪れた回数など、条例の前から遡り、ずっと使えるような指標を見つけることも考えられる。

(市町との役割分担)

- ・具体的な事業に対する市町や県の関わり方の変化に注目する方法もある。

(どのような変化をみるか)

- ・ 参画と協働は、組織と組織のつながり、なかでも人と人とのつながりが基本である。
- ・ 自主的に地域づくりの活動が拡がることが理想型である。
- ・ 参画と協働がどのように浸透していったか、地域の力となり、どのように蓄積されていったか、また行政が支援をすることにより、地域がどのように変化していったかをみる方法が考えられる。
- ・ 県の助成が終ってからの活動団体等の活動状況を追いかけることも考えられる。

### 今後の課題と検討方向

